

## 葉山町立葉山小学校

研究テーマ：「思考力・判断力・表現力の育成～生活科・総合的な学習の時間を通して～」

### 1 実践の目的

葉山小学校では令和4年度、「『思考力・判断力・表現力の育成(以下、思考力等の育成)』～ICTの効果的に活用した授業づくり～」を研究主題に設定した。

授業において、ICTを効果的に活用したことで、児童が他の児童の意見を取り入れやすくなって思考が深まり、自らの表現力の向上につながっている姿が多く見られるようになるなど、一定の成果をあげることができた。

課題としては、ICTにとらわれすぎてしまい、思考力等の育成が中心の授業を計画しづらかったこと、教師側の思考力の見取りとICTの効果的な活用を結びつけることの難しさを感じた。

以上のことからICTの活用については、授業における一定の活用方法を学ぶことができたが、「思考力等の育成」については、1年ではっきりとした成果をあげるまでには至っていない状況だった。

また、葉山町では、6校共通の研究テーマとして「9年間を見通した探究的な学び」を推進している。探究的な学びを通して育てたい資質・能力は、生活科・総合的な学習の時間の目標や学習過程そのものである。

そこで令和5年度は、生活科・総合的な学習の時間を通して、探究的な学びへの理解を深め、実践力を高めることが、思考力等の育成につながるのではないかと考え、上記の研究テーマを設定した。

### 2 実践の内容

#### (1) 研究の仮説

①生活科・総合的な学習の時間において、児童が主体的に学習に取り組もうとする単元計画を作成し、考えを深めることができたという実感をもたせるための効果的な支援を行うことが、思考力等の育成につながるのではないかと考えた。

②調べ学習の後など、疑問をもったことをそのままにせず「なぜだろう」と自分で考える時間を数回確保することが、思考力等の向上につながるのではないかと考えた。

上記2点の仮説を立て、実践を行った。

#### (2) 校内研究の体制

・年間7回の授業研究日を設定し、全学年＋特別支援学級が授業発表を実施した。事前の指導案検討は、低・中・高学年ごとに行い、授業研究・反省会は学校全体で行ってきた。

・指導案検討・授業研究日は葉山町教育委員会より指導主事・教育指導員の先生方を講師としてお招きし、指導・助言及び講評をいただいた。

・「生活・総合的なカリキュラムの作成」をテーマとして、外部講師を招聘して研修を行った。

○6月・2月

日本生活科・総合的学習教育学会顧問

吉田 豊香先生

・学びの連続性(小中一貫)の観点から、葉山中学校の教員も参加できるように連携をとった。

### 3 実践の成果

(教師へのアンケートより)

#### (1) 教師の変容

- 各学年で生活科・総合的な学習の時間について話し合いカリキュラムの大枠ができたのが良かった。また、学年で話したり、学校全体で共有できたりしたので来年度にもつながる研究になった。
- 単元を通して、学年の実態に応じて研究テーマに向けて取り組むことができた。
- 研究することによって思考力や表現力の育成について意識することができた。
- カリキュラムづくりの重要性に気付けたので、1年を見通して授業を計画していこうとする気風が高まった。
- 時間にとらわれることなく、子どもが思考を育んでいる瞬間を大切にみとることができるようになった。
- 思考力の育成するための指導の手立てや支援の在り方を考えることにつながった。
- 観点別評価の基準が明確になった。
- 単元を通して授業を計画することが定着してきた。

#### (2) 子どもの変容

- 昨年度研究したICTを活用しているクラスが多く、子どもたち自身が思考するための判断材料が増え、表現方法の幅が広がっていた。
- 単元計画をしっかりと立てていることで、教師だけでなく、子どもたちが見通しをもって主体的に活動している姿が見られるようになった。
- 研究で行った単元、教科以外でも子どもたち同士で自然とアドバイスし合ったり、表現し合ったりする姿が見られた。

### 4 今後の展開

○実践の課題と今後の方向性

- 自由に単元を設定できる反面、学年の系統性を意識した学年相応の単元設定が難しかった。そのため、地域の「材」の研究・共有を学校全体で行い、小中一貫も視野に入れて6年生までどんな学びを積み重ねていったらよいのかを意識したカリキュラムを学校全体で作成していく必要性が感じられた。
- 昨年度のICTを活用した研究が生かされていたものの、それでも自分の思いを表現できない児童もいるため、ICTを効果的に活用する手立ての工夫については今後も研究していく。
- 子どもたちの日常生活の中での経験が少なく、探究学習に対して消極的な子もいたので、学校でいろいろな経験をする機会を与えたり、意欲的に探究に取り組みたくなるような課題設定を工夫していったりしていく。
- 葉山町のフィールドや人材を活かした活動を授業に組み込んでいくためにはどうしたらよいか悩んでいたが、地域人材コーディネーターの活動が12月に始まったので、今後活用していく。
- 思考力を育成するために、くらげチャートなどのシンキングツールの活用に努めたが、実際に子どもがどう活用していたら、思考が高まっていたかを見取るのが難しかったので、思考ツールの活用、見取り方についての研修会を設定する。

以上の点を踏まえ、葉山小学校では「9年間を見通した探究的な学び」を意識したカリキュラムを作成し、生活科・総合的な学習の時間を通して、思考力等の育成につなげていきたいと考える。